

## 吉川会場質疑応答

Q：幼児への影響は大人の5倍から10倍と言いますが、ネット上では子供や若い女性に西への避難を訴えております。その点はどう思われますか。また自然放射線が高いところで健康被害がありますか。

A：自然放射線の高いところでも健康被害はないと理解しております。菊地先生の話にもありましたが、年間10ミリシーベルト以上の被ばくをしているところでも、統計的に有意な変化はないと言われております。

逃げたほうがいいのではないかということについては、まず、現在の状態をどう考えるかによろと思います。まず、外部被ばくに関して言うと、現在の関東地方はそれほど危険ではないと思います。自然放射線が高い地域に比べると、例えば山口県では昔から0.13マイクロシーベルト毎時の線量があったことを考えると、現在ここがそれほど危険であるとは考えません。現在、年間の追加被ばく線量は1ミリシーベルト以下にしたほうがいだろうというのがコンセンサスになっております。年間1ミリシーベルトを外部被ばくからうけるとすると毎時0.23マイクロシーベルトの線量率が目安です。従って、毎時0.23マイクロシーベルト以上のところは一応気をつけたほうがいだろうということになると思いますが、そのような場所はこの辺ではそれほど多くはありません。

それから、内部被ばくに関してですが、これは先ほどお話しましたように、給食で見ると非常に少ない状態になっております。給食に含まれる放射能を測ることは、子供たちだけではなくて、近くに住んでいる方の被ばく量のある程度推定できることにつながると思っております。幸いなことに、現在の我々の口に入るものの放射能はそれほど高くないだろうと考えられます。

これらのことを総合して考えると、今すぐ逃げる必要はないだろうと私は考えます。ただ、先ほど申し上げましたように、このことをどう考えるかは、生き方や哲学の問題です。逃げたほうがいと思う方は逃げるべきです。ただ、避難と行っても、そう簡単なことではないのも現実としてあるわけで、個人としてメリットとデメリットをすり合わせてお考えになるしかないのではないのでしょうか。

Q：雨が降ったり雪が降ったりして、空気中の放射性物質が付着・降下して線量が高くなりますが、その反面飲料水がなぜ不検出になるのでしょうか。

A：今セシウムは土壌の泥に吸着しております。一旦吸着したセシウムは保持されて土壌中の表層2センチぐらいのところにあります。地下水や上水源からの飲料水中にはその泥が入ってきませんので、不検出となります。

Q：ベクレルとシーベルトの関係と子供への影響について。

A：確かに子供についてのヨウ素の場合は、同じ100ベクレルでも、私と3カ月のお子さんでは線量評価が10倍違うので、子供の場合は、同じベクレルを摂取しても10倍評価が高いのでということで心配しました。けれども、セシウムは、逆に、私よりも幼稚園のお子さんのほうが低くなります。なぜかという、セシウムは、私の場合は100日ぐらいで半分になります。でも、小学校とか幼稚園のお子さんは、5日から2週間ぐらいで半分まで排せつしてしまいます。ということは体内中のセシウムは減少することで、内部被ばくが減るということです。

では、子供に対する影響、これは大人よりも大体2倍程度だと考えてください。ですから、お子さんが心配だというのは、確かにヨウ素の汚染のときにはそういうことが言えましたけれども、今ヨウ素は環境にありません。セシウム汚染の状態ですと、特にお子さんが危険というレベルではない。そして、福島原発から遠隔に避難したほうがいいのかという、それは先ほどもお話したとおり、居住地を変える、環境を変える、生活環境を変えるというのは大きなリスクが生じます。移動したからといって線量がどのぐらい減るか。ある意味では、こちらから関西に行ったら、自然放射線のほうが関西のほうが2倍高いのです。ということは、トータルすると、ふえるかもしれませんので、その辺は、気持ちの整理だと思います。こういう場所で住めないと思う強い不安があれば、それは移住する。そして安心感を持つためには正しい理解、知識ということをしていろいろと学んで自分なりに納得し、選択いただくのがよろしいのかなと思っています。

Q：放射性物質への人体の抵抗力について、人体はどのような力を持っているか。

A：ホルミシス効果という言葉が聞かれたことがある方もいるかと思いますが、放射能が当たることによって体の抵抗力が増して、かえって元気になるという考え方は、その根拠として、ラジウム温泉の周囲に住んでいる人たちの平均寿命が長いことが挙げられています。でも、これは科学的には証明されていないと私は思っています。ラジウム温泉の周りにはいる人たちが長生きなのは、ラジウムのせいではなくて、温泉に入っていてリラックスするのがいいのかかもしれません。

それはともかく、体は外から影響を受けた時には恒常性を維持するために様々な反応をいたします。がんに関して言うと、傷ついたDNAを細胞自身が修復します。DNAを修復できずに細胞ががん化す場合には、細胞はアポトーシスと呼ばれる方法で自殺します。それもくぐり抜けた細胞は免疫のシステムにより排除されます。ですから、DNAが傷ついて個体ががん化するまでには何重にも関門が有って、がん化が阻止されています。一方、がんにならないためには、免疫力をつけることが大事です。スト

レスを感じますと副腎から副腎皮質ホルモンが出て、免疫力を落とすということがわかっています。日常生活の中でストレスをため込まないよう十分気をつけて生活することが、今は大事だと思います。